狸問答

鈴木鼓村

青空文庫

私は、よく怪物に勝つことがあるよ、しかし或は負けていたのかもしれないがね――

数年前、さる家を訪ねて、昼飯の馳走に与って、やがてその家を辞して、ぶらぶら向島の寺島村の堤にかかったのが、四時頃のことだ、秋の頃で戸外は未だ中々明るい、私が昼の膳に出してくれた、塩鰹が非常に好味といったので、その主人が、それなら、まだ残っているこの片身を持って行きたまえというので、それを新聞紙に包んでもらって、片手に提げながらやってくると、堤の上を二三町歩むか歩まぬ内突然、四辺が真暗に暮れてしまった、なんぼ秋の日は釣瓶落だと云ったって、今の先まで、あんなに明るかったものが、こんな急に、暗くなる道理はない、その時分には未だあの辺も開けぬ頃で、あたりはもう、あまり人通りもないのだ、こいつ必ず何かの悪戯だろうと気がついたから、私は悠然とその堤の草の上に腰をおろして、さて大声をはりあげて怒号った、この時傍で誰か聞いていたら、さぞ吹出したろうよ、

「やい、狐か狸か知らないが、よく聞け、貴様は、今己が手に持っておる、この鰹が欲しいので、こんな悪戯をするのだろう、己は貴様達に、そんな悪戯をされて、まざまざとこの大事な魚を、やるような男ではないぞ、今己はここで、美事にこれを、食ってしまうから、涎でも垂らしながら見物しろ」

といって、紙の内から、例の塩鰹を出して私はムシャムシャ初めて、とうとう皆食い終って、

「モウ、皮でも食らえ」

といいながら、前の方へ、投出すと、見る見る内に、また四辺が明るくなったので、私も思わず、笑いながら、再び歩出して、無事に家に帰ったが、何しろ、塩鰹を、そんな一時に食ったので、途事咽が渇いて仕方がない、やたらに水を飲んだもので、とうとう翌日に下痢で苦しんだよ、それ故まあ、一時はおどかしてやったものの矢張私の方が結句負けたのかも知れないね。

これと同じ様な事が、京都に居った時分にもあった、四年ばかり前だったが、冬の事で、ちらちら小雪が降っていた真暗な晩だ、夜、祇園の中村楼で宴会があって、もう茶屋を出たのが十二時過だった、中村楼の雨傘を借りて、それを片手にさしながら、片手には例の折詰を提げて、少し、ほろ酔い加減に、快い気持で、ぶらぶらと、智恩院の山内を通って、あれから、粟田にかかろうとする、丁度十楽院の御陵の近処まで来ると、如何したのか、右手にさしておる傘が重くなって仕方がない、ぐうと、下の方へ引き付けられる様で、中々堪らえられないのだ、おかしいと思って、左の折詰を持った手で、傘を持ってる手の下をさぐってみたが何物も居ない、こいつまた何かござったなと、早速気がついたので、私はまた御陵の石段へどっかと腰を下ろして怒号ったのだ、

「己は貴様達に負ける男ではないから、閉口して、己が今この折詰のお馳走を召上がるところを、拝見しろ」

といいながら、それを開けて、蒲鉾の撮食だの、鯛の骨しゃぶりを初めて、やがて、すっかり、食い終ったので、

「折でも食え」

と投出して、やおら、起って、また傘をさして歩み出したが、最早何事もなく家に帰った、昔からも、よくいうが、こんな場合には、気を確に持つことが、全く肝要の事だろうよ。

青空文庫情報

底本：「文豪怪談傑作選・特別篇　百物語怪談会」ちくま文庫、筑摩書房
　　2007（平成19）年7月10日第1刷発行
底本の親本：「怪談会」柏舎書楼
　　1909（明治42）年発行
入力：門田裕志
校正：noriko saito
2008年9月22日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

狸問答

鈴木鼓村

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/